母性愛神話と今日の子育ての課題 ippo年度 公開シンポジウム報告 父親の子育て 母親の子育て

<table>
<thead>
<tr>
<th>著者</th>
<th>大日向 雅美</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>雑誌名</td>
<td>心の危機と臨床の知</td>
</tr>
<tr>
<td>巻</td>
<td>13-22</td>
</tr>
<tr>
<td>ページ</td>
<td>2011-02-28</td>
</tr>
<tr>
<td>発行年</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

URL: http://doi.org/10.14990/00002707
母性愛神話と今日の子育ての課題

大日向 雅美

今ご紹介いただいたように、私は現在、NPO法人で子育て
が本業での母の役目を果たしています。子育てに関する
研究を行っている。著書『母性の研究』で川島書店に
「母性愛神話の民」として、研究を始め、母性に関する
話をもって子育ての困難に応じているかということを
話し続けている。一部子育て支援のためのNPO法人あい
ほとシェリフェルの代表理事を務めている。

皆様、こんにちは。ご紹介いただきまし
た大日向と申します。本日はこのシンポジウムにお招き
いただきまして、ありがとうございます。私に与えられたテーマは「母性愛神話と今日
の子育ての課題」ということです。時間はちょうど三十分とい
うことですので、早速始めさせていただきたく思います。

あるとき、と言われていますが、昨年shore^{k}_で
お母さんたちの声にも接してまいりました。一九七〇年と
いう数年前に、母子共に困るお母さんたちの声が、たち
に近づきつつあります。今や窓開け、母子共に困るお母
さんたちの声にも接してきたというのです。近所のNPO
法人に寄せた声に、この年で母子共に困るお母さんたち
の声にも接してまいりました。昨年で母子共に困るお母
さんたちの声にも接してまいりました。昨年で母子共に
困るお母さんたちの声にも接してまいりました。

そのお母さんたちの声に接してまいりました。昨年で
母子共に困るお母さんたちの声にも接してまいりました。
昨年で母子共に困るお母さんたちの声にも接してまいりました。
昨年で母子共に困るお母さんたちの声にも接してまいりました。
昨年で母子共に困るお母さんたちの声にも接してまいりました。
昨年で母子共に困るお母さんたちの声にも接してまいりました。
昨年で母子共に困るお母さんたちの声にも接してまいりました。
昨年で母子共に困るお母さんたちの声にも接してまいりました。
昨年で母子共に困るお母さんたちの声にも接してまいりました。
昨年で母子共に困るお母さんたちの声にも接してまいりました。
昨年で母子共に困るお母さんたちの声にも接してまいりました。
昨年で母子共に困るお母さんたちの声にも接してまいりました。
昨年で母子共に困るお母さんたちの声にも接してまいりました。
昨年で母子共に困るお母さんたちの声にも接してまいりました。
昨年で母子共に困るお母さんたちの声にも接してまいりました。
昨年で母子共に困るお母さんたちの声にも接してまいりました。
昨年で母子共に困るお母さんたちの声にも接してまいりました。
昨年で母子共に困るお母さんたちの声にも接してまいりました。
昨年で母子共に困るお母さんたちの声にも接してまいりました。
昨年で母子共に困るお母さんたちの声にも接してまいりました。
昨年で母子共に困るお母さんたちの声にも接してまいりました。
昨年で母子共に困るお母さんたちの声にも接してまいりました。
昨年で母子共に困るお母さんたちの声にも接してまいりました。
昨年で母子共に困るお母さんたちの声にも接してまいりました。
昨年で母子共に困るお母さんたちの声にも接してまいりました。
昨年で母子共に困るお母さんたちの声にも接してまいりました。
昨年で母子共に困るお母さんたちの声にも接してまいりました。
昨年で母子共に困るお母さんたちの声にも接してまいりました。
昨年で母子共に困るお母さんたちの声にも接してまいりました。
昨年で母子共に困るお母さんたちの声にも接してまいりました。
昨年で母子共に困るお母さんたちの声にも接してまいりました。
昨年で母子共に困るお母さんたちの声にも接してまいりました。
昨年で母子共に困るお母さんたちの声にも接してまいりました。
昨年で母子共に困るお母さんたちの声にも接してまいりました。
昨年で母子共に困るお母さんたちの声にも接してまいりました。
昨年で母子共に困るお母さんたちの声にも接してまいりました。
昨年で母子共に困るお母さんたちの声にも接してまいりました。
昨年で母子共に困るお母さんたちの声にも接してまいりました。
昨年で母子共に困るお母さんたちの声にも接してまいりました。
昨年で母子共に困るお母さんたちの声にも接してまいりました。
昨年で母子共に困るお母さんたちの声にも接してまいりました。
昨年で母子共に困るお母さんたちの声にも接してまいりました。
昨年で母子共に困るお母さんたちの声にも接してまいりました。
昨年で母子共に困るお母さんたちの声にも接してまいりました。
昨年で母子共に困るお母さんたちの声にも接してまいりました。
昨年で母子共に困るお母さんたちの声にも接してまいりました。
昨年で母子共に困るお母さんたちの声にも接してまいりました。
昨年で母子共に困るお母さんたちの声にも接してまいりました。
昨年で母子共に困るお母さんたちの声にも接してまいりました。
昨年で母子共に困るお母さんたちの声にも接してまいりました。
昨年で母子共に困るお母さんたちの声にも接してまいりました。
昨年で母子共に困るお母さんたちの声にも接してまいりました。
昨年で母子共に困るお母さんたちの声にも接してまいりました。
昨年で母子共に困るお母さんたちの声にも接してまいりました。
昨年で母子共に困るお母さんたちの声にも接してまいりました。
昨年で母子共に困るお母さんたちの声にも接してまいりました。
昨年で母子共に困るお母さんたちの声にも接してまいりました。
昨年で母子共に困るお母さんたちの声にも接してまいりました。
昨年で母子共に困るお母さんたちの声にも接してまいりました。
昨年で母子共に困るお母さんたちの声にも接してまいりました。
昨年で母子共に困るお母さんたちの声にも接してまいりました。
昨年で母子共に困るお母さんたちの声にも接してまいりました。
昨年で母子共に困るお母さんたちの声にも接してmai
間違いがありました。再送信していただけますか？
2010年度 公開シンポジウム報告

わいく思わずくち 얼마ないんでしょうか。どうして母親が自分を守るのを第一にしていないんでしょうか。一歳の子供を抱いて胸を痛めました。一方で、母性の喪失の時代というあなたが私を抱きしめ、胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。

一方で、母性の喪失の時代というあなたが私を抱きしめ、胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。

私の子供は、子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱かれ、母の胸を痛めた。子供が抱られ
2010年度 公開シンポジウム報告

おいとましようとするとき、実はそこから「もう一杯お茶飲んでいて」というように引き止める方がほとんどで、そして「実

アリングが中心です」、「親が授けたものだけで良いか」と、そんな言葉の声に接して以来、私の研究手法は一定

母性が中心ですが、母の例で母性のうらは大きか。母性のうらに受けたことは一度

昔、そうして三十数年たって、こんなに育て支援プ

育てるために仕事の辞めていました。もっとも、ここには

育てるために仕事の辞めていました。もっとも、ここには

育て支援プ

育てるために仕事の辞めていました。もっとも、ここには

育て支援プ

育てるために仕事の辞めていました。もっとも、ここには

育て支援プ

育てるために仕事の辞めていました。もっとも、ここには

育て支援プ

育てるために仕事の辞めていました。もっとも、ここには
子と向き合っていると、脳から言語が消えていくみたい。失語症になるそうと訴えます。「じや、あなたは誰」と一番話していたの？ 及び何、となったらと思いますか。お母さんがいた期待を受けて、その期待を見事に裏切る方。これはもうわかりでしょう、も。

そうだと思わぬ方も少なくありません。でも、「先が見えない」とおっしゃいます。何年か後に、あとで根木山先生がおっしゃる子育ての問題、社会との接点を奪われるということです。子育ての母親としっかり向き合いたいと思いたい。それができないと勤労環境がある。そうした中で、子育てはますます孤独を強める一方です。

さらに、今日の子育ては親友の子育てをなさっている母親、外で働くお母さんたち、何が起きているのか、社会と子育ての真実を裏で書かせてくれます。「今こんなプロ軸を、こんな仕事をしていません。」という事実を読むと、「すでに、頑張って、子育期待しています。」、そんな返事を書き出すのです。でも、いつも私は元の職場に戻るだろうか。元の職場でなくてもいい。子育てを経験した私の力があれば、何らかの形で社会が使ってくれないかと思うんです。でも、それは何かかなあ？

また、「私で何が残るの。子どもが自立していく」、そうと/or私に何が残るの。子どもが自立していくで、子どもの方と悩みが遠い。一番つらいのは子どもが病気のちをおっしゃいます。何年か後に、あとで根木山先生がおっしゃる子育ての問題、社会との接点を奪われるということです。子育ての母親としっかり向き合いたいと思いたい。それができないと勤労環境がある。そうした中で、子育てはますます孤独を強める一方です。

子どもたちがある。一番つらいのは子どもが病気のちをおっしゃいます。何年か後に、あとで根木山先生がおっしゃる子育ての問題、社会との接点を奪われるということです。子育ての母親としっかり向き合いたいと思いたい。それができないと勤労環境がある。そうした中で、子育てはますます孤独を強める一方です。
2010年度 公開シンポジウム報告

「小一の壁」というのがあります。学校保育が充実している地域はまだなくたくさんあります。小学校の上がった途端に正職では働き続けられない。あるいは、子どもが小さいとき、私が仕事なんかしていなかったり、反対に保育園なんかに預けて、「大事な孫に何てことをさせてくれるんだ。」というお母さん。両家のお金だからやめようとしたある若いお父さんが、保育園なんかに預けて、ノイローゼになってしまったのに、相談に耳を貸しました。それで、子どもが大好きな、いらないについて、職場に戻ろうとしているのです。いらないか、いらないかだらうか、どうじゃないか。将来、何かあったらどうするんだとも。周囲から言われるまでもなく、母親自身が後ろ髪を引かれる思いで職場に戻ろうとしているのです。

一方、父親です。お父さんも、子育てに非常に抱えています。新しい子育ての結論を、十数年前に父親の育児ストレス、育児不安の研究をしたが、そのときは結局何をもとめることができませんでした。会場笑い。男性たちはほとんど悩んでいないといったです。
だろ。しっかりしろ。最近の男性たちはお悪いです。
「いいよ」とおっしゃるんですってね。でも、月曜日、育児相談がわーっと増えます。妻たちは土日を狙って夫に悩ま事を相談するんです。そして、月曜日、あんな人に言われるか。
そこで、自分の子の子育てなのに、第三者的、客観的な関わりをしている夫像が浮かんできます。いいよねとおっしゃったのであれば、最後まで聴いていたきたい。でも、いいと思いますね。心の中で。
中には、ちゃんとチェックを入れる妻がいます。「ねえ、あなた、私なんて言った？繰り返してみて。」ほとんどビートできない。
次に多いのは、「結論はなんだ？」と追うのだそうです。これも私は男性をお責めするつもりはありません。今日は優しい大日向さんなんですが、今日はそんなことございません。ただ、『男は仕事。女は家庭』という性別役割分業社会では、男女が互いに住む世界が違うんだと思います。もともと正確に申しますと、女性は、男性が、じゃないんだね。
errarometarumodarufuru。結論を先に、そして起承転結を確実に例える高速道路を突っ走っているようなものです。
でも、小さい子どもと日々暮らしているのは一般道路。滞在場の言語と、小さい子どもに向け合っている言語が同じ日本語であるということが一度考えてしまいたい。かつて子ども、子育ては夫婦のかますいか。今、夫と妻の心も分けてしまっていま
す。もっと正確におっしゃりますと、男性は女性に、おそうぐすなるだろうと思います。仕事のモードは無駄がないことです。同じ通りを
私たちは、子どもたちの将来を考える責任があります。したがって、子どもの成長を支えるための支援を必要としています。子どもたちの成長を支えるための支援は、先進国における必要性が広がりつつあることから、重要な役割を果たしています。

子どもが成長する中で、母は大きな役割を果たしています。しかし、子どもが成長する中で母は、母としての役割を果たすことが困難になることもあります。そのような場合、母は母としての役割を果たすための支援が必要となります。

子どもたちの成長を支えるための支援は、子どもたちの将来を考える責任を果たすために必要であるとされています。したがって、子どもたちの成長を支えるための支援は、重要であると考えられます。
働き方です。就労環境のワーク・ライフ・バランスです。

四つのうち、最初の「お母さん心構え」ともかく、夫や周囲の協力、保育の質、そしてワーク・ライフ・バランス、これらはまさに今政府が一子育と家族を応援する日本重点戦略の一
「お一人の同世代の研究者を秘書に委託」で、今年になって打ち出された「子ども・子育てビジョン」、「子ども・子育て新システム」が目指されているものと仮定するもので、私の施政における資料を少しお示ししようかとも思います。私に与えられた時間はそれこそ尽きてしまったので、私

何も時間がありませんでした。ご説明をさせていただきたいと思います。

最後に申し上げますが、母性愛神話の開放を長年言っていた者として、一九八〇年代、一九八〇年代ぐらいまでは、日本社会が大変大事にしてきた母性を崩すということも、新<br>淆愛神話からの解放論を唱えていたんです。だから、私たちは神話に落ち込んでいた人もいえども、お母さんが子どもを愛さなくていいと思ったことも、

私たちは一子育と家族を応援する日本重点戦略の一、子ども・子育てビジョン」、「子ども・子育て新システム」が目指されているものと仮定するもので、私の施政における資料を少しお示ししようかとも思います。私に与えられた時間はそれこそ尽きてしまったので、私は崩すことに躍起になっています。私の手に負えないほど、

お一人の同世代の研究者を秘書に委託」で、今年になって打ち出された「子ども・子育てビジョン」、「子ども・子育て新システム」が目指されているものと仮定するもので、私の施政における資料を少しお見せいただければと思います。
を楽しみに参りました。それではとりあえず、私の話をここから
でとさせていただきます。ありがとうございました。

高石 大谷向先生、ありがとうございました。母性愛神話巡
る戦いをずっと続けてこられて、その先に何があるのかという
問いに今取り組んでおられるということでした。先生のお話
の中で、男性と女性が今は子どもを巡って深い溝を失にしてい
る、それが男女の差ではないて仕事、理性の社会と子育て
の不合理の世界というところに、はっとさせられるものがあり
ました。女性にとっても男性にとっても、両方をしっかりとと無
復できるような生き方があり、ひょっとしたかもこれから男・女両方が
子育てに向かっていくための一つのヒントになるのかなとい
うことも思い浮かべておりました。また討論で続きの話を伺え
るかと思います。